

ジュニア賞

「いたいのどこかな？」ゲーム

藤原 千早 (小学2年生：シドニー)

じぶんが小さいころ、病院でお医者さんや、かんどしさんに「いたいのどこかな？」「どんな風にいたいのかな？」など聞かれたとき、はずかしかったり、言葉が分からなくて、答えられないことがありました。わたしの妹もそうでした。

そんな時、お医者さんとかんじゃさんみんながこまってしまうないように、考えたのがこれです。

インターネットのアプリで、かわいい動物キャラが出て来て、お医者さんのかっこうをしています。男の子と、女の子で、キャラクターをえらべるようにしてあります。そのキャラクターがまずさいしょに「いたいのどこかな？」と聞いてきます。キャラクターの体が画面上にあらわれて、自分がいたい部分と同じ部分を、キャラクターの体上でタッチします。すると、キャラクターが、たとえば「おなかの左がわがいたいんだね。」と教えてくれます。

次に、いたみのレベルを聞かれます。1から10のレベルがあって、どれかえらんでタッチします。すると、キャラクターが、「いたみは、がまんできないくらい、いたいんだね。」と、数字を言葉におきかえてくれます。

さいごに、どういう感じでいたいのか聞かれます。たとえばわたしのけいけんだと、ヒリヒリ、ズキズキ、チクチク、ガンガン、ムズムズ、などのせんたくしが画面上に出てきます。それいがいのひょうげんをしたい時は、下の入力らんに、自分の言葉でうちこめます。

これらをやったら、キャラクターが「だいじょうぶだよ。病院はこわくないよ。」とはげまし、そのデータが病院とつながって、病院に行くと本物のおもちゃやシールなどをもらえます。このゲームになれて病院でふつうに、おちついて答えられる子がふえたらうれしいです。

さらに、しょうにかのお医者さんたちがこのゲームであそんだ子たちのデータを見て、「子どもがこういう言い方をしたら、どこがどんな風にいたいんだな。」などのしんだんの手がかりがふえるといいなと思います。